

ビクトリーグループ SDGs活動報告 四半期レポート

2025.7-9

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



2030年目標

当社グループは、持続可能な開発目標（SDGs）達成に貢献できるように、一つの課題に長期的視点で取り組み、従業員・顧客・取引先・地域社会など、あらゆるステークホルダーにとって必要な存在となるように、そのうえで、当社グループが事業を継続的に成長させるための7つの課題を設定しました。

7つの課題と該当する17の目標	これまでの取組実績	今後の課題
<p>カーボンオフセット</p>	<ul style="list-style-type: none"> エコドライブ運動 植樹活動・寄付活動 森林保全 自家消費発電システム(太陽光発電システム) 電気自動車の導入(営業車) 	<ul style="list-style-type: none"> 工場・事務所 省エネ運動 スコープ3 RE100 再生エネルギー導入
<p>廃棄物と資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> 解体工事における分別解体・分別排出及びリノベーションにより既存躯体の再利用 処理施設における徹底分別・新たな再資源化技術の導入 DX→ペーパーレス化 グループ拠点で発生する古紙・段ボールの定期回収→リサイクル（非焼却化） 	<ul style="list-style-type: none"> グリーン購入 雨水利用（洗車）
<p>生活環境・公害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域清掃活動 石綿調査事業立ち上げ 法改正（工事前の事前調査）の受け皿として当然飛散防止解体工事も含む フロン放出抑止 法改正周知・遵守・普及活動 	
<p>労働環境改善と健康経営</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種資格取得制度の拡充 各種セミナーの受講 各部門 品質向上・顧客満足向上 PDCA会議 男性育児休業等推進宣言企業の登録運動支援 協会けんぽ 健康経営宣言 	<ul style="list-style-type: none"> ストレスチェック 喫煙率削減 八潮市内シェアア・子育て支援 健康経営優良法人・ブライト500 エコ検定・SDGSマスター 電気ユニボの導入
<p>働きがい・人財教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種資格取得制度の拡充 各種セミナーの受講 各部門 品質向上・顧客満足向上 PDCA会議 	
<p>地域社会への貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> こども食堂活動支援 乳児院・孤児院・各自治体の子ども支援事業への寄付活動 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時協定（八潮市） 災害時協定（三郷市）
<p>その他の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県SDGsパートナー活動 エコアクション21活動 優良認定取得 	<ul style="list-style-type: none"> BCP（事業継続計画）の策定 障がい者・高齢者雇用 ガバナンス強化 ビクトリー森づくり（キャンプ場・森林植樹） コンプライアンス強化

活動遍歴



年表	取り組んだSDGs活動	該当する17の目標
2025年7月	<ul style="list-style-type: none"> グループ拠点で発生する古紙・段ボールの定期回収 子ども食堂 運搬支援 ハーベストジャパンさんから子ども食堂さんへ食品の運搬 企業版ふるさと納税 三郷市への寄付 感謝状の授与 さいたまトラスト基金への寄附 感謝状の授与 健康経営会議の開催 	
2025年8月	<ul style="list-style-type: none"> グループ拠点で発生する古紙・段ボールの定期回収 ビクトリーファーム収穫 	
2025年9月	<ul style="list-style-type: none"> グループ拠点で発生する古紙・段ボールの定期回収 栃木県 産業廃棄物収集運搬業の優良認定を更新 	

太陽光・資源循環の成果

月	段ボール(kg)	古紙(kg)	合計(kg)	CO ₂ 削減量(kg)
7月	580	70	650	221
8月	540	50	590	201
9月	250	60	310	105
合計	1370	180	1550	527

【該当する課題】 カーボンオフセット



当社は本四半期、太陽光発電の活用と資源循環の徹底によって、合計約2.43t-CO₂を削減しました（太陽光由来 1,904.392kg、リサイクル由来 527kg）。太陽光は総発電量4,388kWh、うち2,957kWhを自家消費し、電力起因の排出を直接抑制。CO₂削減量はスギ成木換算で136.028本に相当し、事業所の脱炭素化に着実に寄与しました。月別では7月が729.554kgと最大、8月655.774kg、9月519.067kgと季節変動を反映しつつも安定した効果が確認されています。資源循環では、各拠点で排出される段ボール・古紙を毎月回収し、3か月合計で1,550kg（段ボール1,370kg／古紙180kg）を資源化。これにより、焼却回避によるCO₂削減527kgを達成しました。太陽光による“つくる電力の脱炭素”と、資源循環による“使った後の最適化”を両輪とすることで、環境負荷の低減を日常業務に組み込んでいます。

月	発電量(kWh)	売電量(kWh)	買電量(kWh)	消費量(kWh)	自家消費量(kWh)	CO ₂ 削減量(kg) ※自家消費分	CO ₂ 削減量(kg) ※売電分	総CO ₂ 削減量(kg)	スギ成木換算(本)
7月	1681	514	827	1994	1167	506.478	223.076	729.554	52.111
8月	1511	510	823	1824	1001	434.434	221.340	655.774	46.841
9月	1196	407	890	1679	789	342.426	176.638	519.067	37.076
合計	4388	1431	2540	5497	2957	1283.338	621.054	1904.392	136.028

※令和3年度全国平均係数0.000434 (t-CO₂/kWh) スギ1本あたりの二酸化炭素 (CO₂) 吸収量年間14kgで計算

Topic 01 三郷市へ企業版ふるさと納税

【該当する課題】 地域社会への貢献



ビクトリー（以下、当社）は2025年7月16日、埼玉県三郷市が推進する「まちづくりは道づくり事業」に対し、企業版ふるさと納税として1,000,000円を寄附いたしました。2025年1月、八潮市内で道路陥没事故が発生したことを受け、道路環境の維持・改善が地域の安全と企業活動の継続に直結するという認識を一層強めました。道路は人と経済の血流であり、当社にとっても事業継続の要です。こうした背景から、道路環境の整備を柱とする本事業に深く共感し、寄附を決定いたしました。当社は、この事業が三郷市の交通の利便性向上をもたらし、地域内外の人の流れを活性化させることで、地域経済の持続的な発展につながると期待しています。加えて、交通渋滞の緩和は日々の運行业務に従事する当社社員の負担軽減にも寄与し、職場の安全と生産性の向上に波及効果をもたらすはずです。人口流入や企業活動の活発化は雇用機会の拡大を促し、当社を含む地元企業の採用力強化にもつながると見込んでいます。企業版ふるさと納税は、単なる資金提供ではなく、官民が協働して地域課題の解決に挑む“パートナーシップ”の仕組みです。当社はこの理念を大切に、三郷市の未来づくりに継続的に貢献していきます。



取締役 森田 和也(左) 三郷市 木津 雅哉市長(右)

Topic 02 さいたまトラスト基金への寄附

【該当する課題】 カーボンオフセット



ビクトリーおよびビクトリーワークス（以下、当社）は、埼玉の自然や歴史的環境を未来へ引き継ぐ「さいたま緑のトラスト基金」に寄附を行い、2025年7月25日に埼玉県より感謝状を拝受しました。私たちが日々お世話になっている“地元の緑”に、企業としてできる形で恩返しをしたい——そんな思いからの取り組みです。

同基金は、県民のみなさんから広く寄附を募り、その資金で土地などを取得・保全していく「緑のトラスト運動」を支える仕組みです。昭和59年に発足した「さいたま緑のトラスト協会」と、昭和60年に県に設置された「トラスト基金」が一体となり、埼玉のすぐれた自然や貴重な歴史的環境を県民共有の財産として、長く守り続けることを目指しています。

当社は今回の寄附を、SDGsのGOAL13（気候変動）/ GOAL15（陸の豊かさ）/ GOAL17（パートナーシップ）に沿った活動と位置づけています。寄附して終わりではなく、今後は保全面積や植栽本数、イベント・清掃活動の回数など、可能な範囲で成果の「見える化」にも取り組み、四半期レポートで進捗をお伝えしていきます。社員ボランティアの参加機会も増やし、地域と一緒に“身近な緑”を大切に育てていきます。



Topic 03 健康経営STEP2の取り組み

【該当する課題】 労働環境改善と健康経営



当社は、健康経営の実効性を高める「STEP2」段階として、部署ごとに担当テーマを明確化し、年間計画に基づく活動を進めています。具体的には、健康増進・過重労働防止に向けた目標（計画）の策定を起点に、進捗を四半期単位で振り返り、改善サイクル（PDCA）を回す体制を整えました。各部署が自らの業務特性に即した課題—運動・睡眠・栄養・メンタルヘルス・働き方—を選定し、実施内容と評価指標を設定して取り組んでいます。

全従業員に対しては、健康保持・増進に関する情報提供（生活習慣・口腔ケア・禁煙・受動喫煙対策等）を継続的に行い、社内掲示や配信を通じて“わかりやすく・続けやすい”行動変容を後押ししています。また、経済的な不安を軽減し受療行動を促すため、健康保険組合からの手当とは別枠の当社独自支援として、治療費補助や休業補償をパッケージ化した「ビクトリーGP保険制度」を設置しました。突発的な通院・休業にも備えられる仕組みとすることで、早期受診・早期職場復帰の両立をめざします。

これらの取り組みは、「働きがい」や「安全・安心な就業環境」の実現を通じて生産性とエンゲージメントの向上にもつながります。今後は、参加率や保健指導の実施件数、長時間労働者比率、喫煙率などの客観指標の可視化をさらに進め、社内に表示していきます。社員一人ひとりが健康で、長く活躍できる組織づくりに向け、当社は引き続き健康経営を全社で推進してまいります。

